

志賀直哉年譜考 (六)

— 明治三十七年一月から四月まで —

生 井 知 子

明治三十七年(一九〇四) (数え二十二歳・満二十一・二十二歳)

1・1(金) 直哉は青山に墓参。睦友会の会合に出席。久本亭に行く。吉花の「絵本太功記」十段目、昇之助の「新版歌祭文」野崎村の段を聞く。(日記)

1・2(土) 近衛篤磨院長死去。(学習院一覽 明治三十八年九月～三十九年八月)「記事摘要」

直哉は横浜の喜楽座で観劇。「神靈矢口渡」「大杯觴酒戦強者」「鎌倉権五郎」「茲江戸小腕達引」を見る。左団次、小団次、米蔵、莚升、歌昇、荒次郎、升若、九団次など。(日記) (歌舞伎放談「初代左団次」) (稲村雑談「芝居熱」) (続々歌舞伎年代記) 坤の巻)

1・3(日) 午前十時半から午後四時半頃まで田村寛貞が志賀家に来宅。午後五時頃から夜十二時頃まで直哉は田中平一を訪問。良心について語る。(日記)

1・4(月) 細川潤次郎が学習院長心得となる。(学習院一覽 明治三十八年九月～三十九年八月)「記事摘要」

直哉は午前十時頃から、昇之助に与ふるの書を作り、夜田中平一が来て清書、投函。(日記) 昇之助の天分は豊かなものである、それを自覚し、どこまでも自重してほしいという匿名の手紙だった。(濁った頭) 関連草稿 (未定稿)

137 『マリイ・マグダレーン』

1・5(火) 午後三時頃から田中平一と小山三郎が志賀家に来宅。直哉は青山に墓参し、田中平一の家に寄り、七時十分過ぎに久

本亭着。巴勝の「桜鴉恨較鞘」(鯉谷)、吉花の「撰州合邦辻」、昇之助の「三十三間堂棟由来」(柳)を聞く。(日記)

1・6(水) 近衛院長の葬儀。学習院学生一同葬送。(『学習院一覽 明治三十八年九月〜三十九年八月』「記事摘要」)

昼近く、直哉は、木下利玄を訪問。共に目白村塾まで歩き、いつか休暇にここを借りて数日を過ごしたいと語り合う。

その後、近衛院長の葬列に加わり、谷中斎場まで行く。(日記) (木下利玄日記)

直哉は、夜一人で久本亭に行く。巴勝の「箱根靈驗覽仇討」饞別の段、吉花の「碁太平記白石斬」七段目(揚屋)、

昇之助の「菅原伝授手習鑑」四段目切(寺子屋)を聞く。(日記) (M37・1・11日記)

1・7(木) 直哉は、田中平一と共に木下利玄を訪問し、三人で東京座で観劇。「児雷也後日物語」「和田合戦女舞鶴」「碁太平記

白石斬」「神明恵和合取組」を見る。芝翫、小団次、ぼたん、猿之助、女寅、宗之助、訥子、源之助、勘五郎、団子

など。(日記) (木下利玄日記) (『続々歌舞伎年代記』坤の巻)

その後、直哉は、久本亭に行く。吉花の「伽羅先代萩」六段目(御殿)、昇之助の「傾城阿波の鳴門」八段目を聞く。

(日記)

1・8(金) 学習院で新年始業式。(『学習院一覽 明治三十八年九月〜三十九年八月』「記事摘要」)

直哉は始業式に出席。林博太郎の新任告達式がある。田中平一の家に寄つてから帰宅。夜、志賀直道・直温・英子・

直三・淑子と双六をする。(日記)

1・9(土) 午後、田中平一が志賀家に来宅。直哉は夕食後、久本亭に行く。巴勝の「増補八百屋献立」、吉花の「仮名手本忠臣

蔵」四段目、昇之助の「近頃河原達引」堀川の段を聞く。(日記)

1・10(日) 午後、直哉は、田中平一と新富座で観劇。「扇富士蓬萊曾我」「是評判浄名読売」を見る。又五郎、勝太郎、幸之助、

駒助、左喜松、梅次郎など。(日記)〔続々歌舞伎年代記 坤の巻〕

直哉は四時過ぎ新富座を出、眼鏡のやぶで食事後、久本亭に行く。巴京の「絵本太功記」十段目、末菊、綾登司の「玉藻前曦袂」三段目、梅登の「菅原伝授手習鑑」四段目切(寺子屋)、巴勝の「傾城反魂香」(吃又)、吉花の「三十三間堂棟由来」(柳)、昇之助の「御所桜堀川夜討」三段目を聞く。(日記)

1・11(月) 夜、直哉は志賀直道と義太夫について話す。八時半頃、岩下家一が志賀家に来て泊まる。(日記)

*直道は義太夫が好きでよく出かけ、琴平亭では定連になっていた。相生太夫が鼻肩だった。直哉は「学生が娘義太夫を聞くというところは誤解されやすいから、なるべく一緒に行きましょう」と言うが、直道は「ただ聞きに行くだけなら、少しも差し支えない」と返事をした。〔祖父〕十九

1・12(火) 朝六時半から七時十五分まで直哉は岩下家一と話をし、一時間遅れて学習院に登校。フットボールをする。午後の「漢文」の時間はすべて遊ぶ。夜「西洋歴史」の勉強。(日記)

1・13(水) 直哉は、フットボールをする。学習院の帰り、有島生馬を訪問、八時頃まで話す。帰宅後、広津柳浪『名物 松原饅頭』を読む。(日記)

1・14(木) 直哉は「英文」の『フレデリック大王伝』の授業で当てられる。ポートのC組の選手について相談。夜、『フレデリック大王伝』・『バッド・ボーイ』・『東洋歴史』の復習後、一時半頃から『松原饅頭』を読む。三時半就寝。(日記)

1・15(金) 直哉は『バッド・ボーイ』とブッフハイム『独逸読本』の授業で当てられる。(日記)

1・16(土) 南日恒太郎と熊本謙二郎の「英文」は休講。直哉は有島生馬と東京美術学校に行く。藤島武二は不在だが色々見せて貰う。神田の敷で夕食後、中西屋に寄ってから、錦輝館に行く。弥珪太夫の「絵本太功記」十段目前半部(夕顔棚)、葉太夫の「増補忠臣蔵」(本蔵下邸)、角太夫の「恋女房染分手綱」十段目(重の井子別)、長子太夫の「伊賀越道中双

六「六段目、生島大夫の「菅原伝授手習鑑」四段目切(寺子屋)を聞く。(日記)

1・17(日) 直哉は、明治座で観劇。大入り客止め。川上音二郎・貞奴・山本芳翠も来ていた。松居松葉「後藤又兵衛」、「御所桜堀河夜討」三段目、「秋色桜上野早咲」を見る。左団次の又兵衛。山本芳翠が書割を書いた。芝翫、米蔵、寿美蔵、小団次、時蔵、蓮升、ぼたんなど。(日記)〔歌舞伎放談〕「初代左団次」〔続々歌舞伎年代記〕坤の巻

1・18(月) 直哉は岩倉道俱を見舞い、午後から、志賀直道・留女・英子のいる歌舞伎座に行く。「忠孝梅金沢」「大磯和田宴」「三千両初春蔵入」「恋飛脚大和往来」を見る。八百蔵、羽左衛門、市蔵、我当、吉右衛門など。(日記)〔続々歌舞伎年代記〕坤の巻

1・19(火) 直哉は、学習院の最初の一時間と終わりの一時間を欠席する。田中平一の家を訪問し、八時半頃帰宅、就寝。三条公輝に『金色夜叉』を貸す。(日記)

木下利玄・正親町公和が直哉に寄せ書きの葉書を送る。(志賀直哉宛書簡集)

1・20(水) 直哉は昼から学習院を休む。五時頃家を出て東橋亭に行く。綾登司の「日蓮聖人御法海」三段目(動作住家)、巴勝の「増補八百屋献立」、素行の「加賀見山田錦絵」七段目(尾上部屋)、岡太郎、網清、吉花の「摂州合邦辻」を聞く。十時半帰宅。(日記)

1・21(木) 学習院正堂で近衛院長の追悼会。(「学習院」一覽 明治三十八年九月―三十九年八月)「輔仁会記事摘要」

夜、田中平一と立花が志賀家に來宅、十時半に帰る。直哉は伊東に『不如帰』を貸す。「心理」のノートを借りる。(日記)

1・22(金) 直哉は、南日恒太郎の「英文」、林博太郎の「独文」で当てられる。「武課」は休んで図書館で「フレデリック大王伝」の勉強。帰りに田中平一の家により、夜はアーヴィングの「The Sketch Book」の「The Wife」を読む。(日記)

1・23(土) 午後、直哉は有島生馬を訪問し、夕食後、有島・川村弘・小宮山と東橋亭に行く。素行の「恋娘昔八丈」鈴ヶ森の段、

岡太郎の「日吉丸権桜」三段目、吉花の「新版歌祭文」野崎村の段、吉花・綾登司・朝之助掛け合いの「本朝廿四孝」四段目（十種香）を聞く。（日記）

1・24（日）睦友会の会合で、田村寛貞、有島生馬、黒木三次、川村弘、柳谷午郎、徳田速雄、杉山得一、佐久間忠雄、松平春光、志賀直哉、菅田敏光、中村貫之、里見瑛が集まる。直哉は、帰途、日本赤十字社病院に岩倉道俱を見舞う。（日記）

1・25（月）直哉は、自宅で『水車』を書く。（日記）↓後の未定稿23、24『鳥の声』、未定稿39『山の水車』

1・26（火）午後の「漢文」は休みだった為、直哉、木下利玄、細川護立は、正親町公和の家に赴き雑談。夜、直哉は有島生馬を訪問。（日記）（木下利玄日記）

1・27（水）直哉は岩倉道俱を訪問、十一時頃まで遊ぶ。学習院に寄り、正親町公和と帰宅。三時頃、川村弘が来宅。夜は泉鏡花「田毎かゞみ」を読む。（日記）

1・28（木）図書館で邦語演説会が開かれる。武者小路実篤「誘惑」、裏松友光「平民的観念の必要」、徳川慶久「伊豆記行」、小原重雄「片瀬の師走」、園池公顕「旅行の奨励」、神田乃武、大森金五郎「旅行の奨励」。（M37・3「学習院輔仁会雑誌」62号「批評」）

直哉は、邦語演説会を聞き、夜一人で東橋亭に行く。岡太郎の「三十三間堂棟由来」（柳、吉花の「御所桜堀川夜討」三段目、昇之助の「傾城阿波の鳴門」八段目を聞く。十時半帰宅。（日記）

1・29（金）朝、直哉は田中平一の家に行き十一時頃まで遊んで学習院へ登校。夜七時頃から琴平亭に行く。団昇の「壺坂靈験記」、友之助の「恋女房染分手綱」十段目（重の井子別）を聞く。（日記）

1・30（土）午前から田中平一が志賀家に来宅。正午頃、有島生馬が来宅。三時頃に家を出て、直哉と有島は明治座で観劇。「後藤又兵衛」、「御所桜堀川夜討」三段目を見る。その後、東橋亭に行く。吉花の「伽羅先代萩」六段目（御殿、昇之助の「恋飛脚大和往来」（新口村）を聞く。（日記）

1・31(日) 直哉は夜ブッフハイム『独逸読本』を勉強。(日記)

2・1(月) 直哉は、学習院を休み、午前中はドイツ語を勉強。午後は『紅葉全集』を買ってきて読み、『善悪柿太郎』を書く。

夜は田中平一の家に寄り、喜吉亭に行く。時松の「日蓮聖人御法海」三段目(勸住住家)、巴勝の「伊勢音頭恋寝刃」油屋の段、広勝の「恋娘昔八丈」鈴ヶ森の段、梅登の「日吉丸稚桜」三段目、昇之助の「三十三間堂棟由来」(柳)を聞く。(日記)

2・2(火) 瀬川秀雄の「西洋歴史」の授業。直哉は十一時より帰宅。『フレデリック大王伝』を勉強。八時から喜吉亭に行こうとするが黒木三次が来宅。十一時頃まで話す。(日記)

2・3(水) 直哉は昼帰宅。『バッド・ボーイ』を勉強。夜高崎弓彦の家でブッフハイム『独逸読本』を習い、喜吉亭に行く。広勝の「生写朝顔話」宿屋の段、梅登の「絵本太功記」十段目、昇之助の「艶容女舞衣」酒屋の段を聞く。広勝が木下利玄の隣の今川焼屋の娘であることを知る。(日記)

2・4(木) 直哉は朝「国文」を二時間休む。熊本謙二郎の「英文」の授業がある。午後の小林良四郎の「漢文」は休講だった。『フレデリック大王伝』を勉強し、四時半から細川護立の家に行く。木下利玄・正親町公和も来る。(日記)(木下利玄日記)

喜吉亭に行く。梅登の「碁太平記白石嘶」、昇之助の「御所桜堀川夜討」を聞く。(日記)

2・5(金) 直哉は白鳥庫吉の「東洋歴史」は欠席。熊本謙二郎と南日恒太郎の「英文」、林博太郎のブッフハイム『独逸読本』に当たる。七時頃、小山三郎が志賀家に来宅。(日記)

2・6(土) 動員令が出され、学生監の松平忠禎副官、山尾和三郎助手らの送別会が催される。清水谷で撮影の後、宝亭で宴会。(日記)(木下利玄日記)

直哉は、黒木三次、田村寛貞、有島生馬と、米津政賢のことを相談。夜、田中平一と喜吉亭に行く。広勝の「艶容女

舞衣」酒屋の段、梅登の「恋娘昔八丈」鈴ヶ森の段、昇之助の「絵本太功記」十段目を聞く。米津へ手紙。(日記)

木下利玄が直哉に手紙を認める。川村弘から木下利玄が義太夫に行くことが学習院の人に知れ渡りそうなので、直哉から川村弘に人の前で言わぬように頼んでくれとのこと。(「志賀直哉宛書簡」)

2・7(日) 午後、直哉は牧野先生の所に、志賀英子とお悔やみに行き、山本直良の所に行く。殿太夫の「勢州阿漕浦」(平次住家)と「壇浦兜軍記」三段目(琴書)などを聞く。(日記)

2・8(月) 直哉は学習院を休む。立花と喜吉亭に行く。綾登司の「恋娘昔八丈」鈴ヶ森の段、時松の「玉藻前臈袂」三段目、巴勝の「増補忠臣蔵」(本蔵下邸)、広勝の「雪責」、梅登の「生写朝顔話」宿屋の段、昇之助の「本朝廿四孝」四段目(十種香)を聞く。(日記)

2・9(火) 直哉はゲーテ『ヘルマンとドロテーア』を習う。昇之助の「近頃河原達引」堀川の段を聞いて帰る道、風紀衛兵にビールを馳走しようとする。(日記)

2・10(水) 直哉は、立花、田中平一と喜吉亭に行く。志賀直道、有島生馬、木下利玄、正親町公和、佐竹らがいる。広勝の「新版歌祭文」野崎村の段、梅登の「菅原伝授手習鑑」四段目切(寺子屋)、昇之助の「傾城阿波の鳴門」八段目(巡礼唄)、余興の「仮名手本忠臣蔵」七段目を聞く。(日記)(木下利玄日記)

2・11(木) 学習院で紀元節奉祝式。式後、細川院長心得が、前夜煥発せられた日露戦争宣戦の詔勅を奉読。(「学習院」覧 明治三十八年九月～三十九年八月)「記事摘要」

直哉は、朝五時の汽車で山形へ向かう。午後八時半着。志賀直方が迎えに来る。(日記)

直哉は、志賀直方と山寺に行く。(日記)

2・12(金) 直哉は十一時頃山形を出て、三時頃福島着。福島座を見る。夜一時頃の夜行に乗る。(日記)

2・13(土) 直哉は午前九時半帰宅。内村鑑三の所は欠席する。午後から田中平一と歌舞伎座の第二回歌舞音曲名人会に行く。そ

の後、喜吉亭に行く。梅登の「雪責」、昇之助の「桜鏝恨鮫鞘」(鰻谷)を聞く。(日記)

2・15(月) 直哉は学習院を休み、夜高崎弓彦の家と田中平一の家により、九時半頃、喜吉亭に行く。昇之助の「菅原伝授手習鑑」四段目切(寺子屋)を聞く。(日記)

2・16(火) 直哉は「独文」の授業で当てられる。昼に林博太郎の『ヘルマンとドローテア』の講義がある。午後の小林良四郎の「漢文」は休講だったため、『フレデリック大王伝』を復習すべく、木下利玄と共に帰宅。帰途、昇之助・昇菊の話をし、《人の春を愛するの余之と同化せんとして悩を覚ゆる如く人ハ或人を愛すればたとひ如何するとも砕きてその人と一所になして貰ひたきものなり》などと発言し、木下利玄に感銘を与えた。正親町公和、細川護立も来宅したが、義太夫の話に花が咲き、『フレデリック大王伝』の復習は中止。(日記)(木下利玄日記)

2・17(水) 直哉は、帰途岩倉道俱の家により、木下利玄の家で、木下利玄・正親町公和・細川護立と『フレデリック大王伝』を勉強。広勝の家の亀の子焼を食べる。広勝の名はお竹、軍人の娘と聞く。(日記)

2・18(木) 朝の「作文」の授業で「陣営」「出征」「号外」の三題が出される。直哉は「陣営」を選び、二月九日の体験を書く。放課後、木下利玄、正親町公和と共に細川護立の家を訪問し、『フレデリック大王伝』の復習をし、夜は炉辺に「三十三間堂棟由来」を読み、昇之助談をする。昇之助に対し、語りた、聞きたい、かじりつきたい、なめたい、ふるいつきたい、見たいなど色々の意見が出るなか、木下利玄は、とてもそんな事では間に合わない、一所に砕かれないと語った。(日記)(木下利玄日記)(濁った頭(閨連草稿)(未定稿137「マリイ・マゲダレン」)

直哉は八時半帰宅。その後、麻布亭に行く。柳適太夫の「ひらかな盛衰記」三段目(逆櫓)、相生太夫の「壺坂靈験記」を聞く。(日記)

2・19(金) 直哉は学習院を休み、午後から春日・日進回航員歓迎会に行く。『フレデリック大王伝』を勉強。(日記)

2・20(土) 直哉は『フレデリック大王伝』の試験を受ける。宮松亭に行く。小豊後、東糸の「廓文章」(吉田屋)、昇之助の「和

田合戦女舞鶴」三段目を聞く。(日記)

2・21(日) 朝七時半、木下利玄が志賀家に来宅。正親町公和も来宅。直哉と船に行く約束だったが、大風の為、出かけられず、絵葉書・義太夫談をする。午後、田中平一も来宅し雑談。(日記) (木下利玄日記)

午後六時から二時間半、直哉はプッフハイム『独逸読本』を勉強。九時前から麻布亭に行く。相生太夫の「伽羅先代萩」六段目(御殿)を聞く。有島生馬・岩倉道俱・志賀直方へ手紙を出す。(日記)

2・22(月) 直哉は、午前七時半から六時間、プッフハイム『独逸読本』を勉強。午後八時に家を出て琴平亭に行く。緑太夫の「岸姫松轡鑑」三段目、朝太夫・松太郎の「近頃河原達引」堀川の段を聞く。(日記)

2・23(火) 直哉は、有島生馬から預った昇之助・昇菊の写真版を木下利玄に渡し、共に校庭を歩みつつ、団光、梅登、綾登司に似た人を見出すが、昇之助に似た人は見出せない。直哉は、朝、プッフハイム『独逸読本』の授業で当たる。昼は「ヘルマンとドローテア」の講義があった。「漢文」の授業でも当たった。(日記) (木下利玄日記)

夜、麻布亭に行く。菅太夫の「玉藻前曦袂」三段目、柳適太夫の「双蝶々曲輪日記」、相生太夫の「傾城阿波の鳴門」八段目を聞き、相生太夫の鳴八をすばらしいと思う。「フレデリック大王伝」を見て寝る。(日記)

2・24(水) 直哉は昼から学習院を休んで有島生馬の家に行き、アンデルセン『即興詩人』を読む。夜、田中平一が来宅。(日記)

記) * 『書き初めた頃』によれば、アンデルセンは森鷗外訳『即興詩人』が出た後、英訳本でお伽噺などを讀んだという。* 『稲村雑談』『読書』によれば、森鷗外は、古い美文系統のものは性に合わず、『即興詩人』は愛読したが、他は殆ど読んでいないという。

2・25(木) 直哉は昼から帰宅。木下利玄から貰った昇之助の写真を貼る。「フレデリック大王伝」と「パッド・ボーイ」を勉強。田中平一も来宅。夜、宮松亭に行く。巴勝の「傾城反魂香」(吃文)、小豊後の「生写朝顔話」宿屋の段、東系の「御

所校堀川夜討」三段目、昇之助の「新版歌祭文」野崎村の段を聞く。（日記）

2・26（金）直哉は、有島生馬に写真二葉を添えて芸評を送る。柔道をしラクロスを見る。田中平一の家に寄る。（日記）

2・27（土）直哉は朝から学習院を休む。田中平一と喜吉亭に行く。万八の「三十三間堂棟由来」（柳）、花米の「国性爺合戦」

（楼門）、岡太郎の「日吉丸稚桜」三段目、大吉の「壺坂靈験記」、友之助の「菅原伝授手習鑑」四段目切（寺子屋）を聞く。（日記）

2・28（日）朝、直哉は日記と前夜の評を書き、木下利玄に送る。夜、直哉は宮松亭に行く。小豊後の「本朝廿四孝」四段目（十種香）、東糸の「太平記忠臣講釈」七段目（喜内住家、昇之助の「傾城阿波の鳴門」八段目、余興の「仮名手本忠臣蔵」七段目を聞く。（日記）

木下利玄が直哉に絵葉書を出す。（『志賀直哉宛書簡』）前日の喜吉亭の評を記した直哉の手紙が木下利玄に届く。（木下利玄日記）

2・29（月）翌日「心理」の試験があるというので、志賀家に木下利玄・正親町公和が来て、直哉と復習。（日記）

3・1（火）直哉は、あわれな納豆売りの話を聞く。「心理」の試験は出来る。春日亭に昇之助を聞きに行くのを思いとどまり、

『フレデリック大王伝』の勉強をする。（日記）

有島生馬が直哉に歌麿の絵葉書を出す。（『志賀直哉宛書簡集』）

この年か？／前年か？（中学六年の時）（高等科になった初の頃から）

直哉は、有島生馬から歌麿の絵葉書を貰ったりして、浮世絵の美しさを知り、浮世絵熟が高まる。歌麿の「菊慈童」を三田で買う。（『新年随想』「絵と陶器」）「書き初めた頃」

その後、北斎、豊国、国貞、湖龍斎などを集めた。それらの中の目ぼしいものは、後年、ロダンに贈った。（『書き初めた頃』）

3・2(水) 直哉は一日授業を休み、末永馨への返事と北島旭への絵葉書を書く。鏡花の『紅雪録』が載っている「新小説」と昇

之助の写真の載っている「百花新報」を買う。『フレデリック大王伝』、プッフハイム『独逸読本』を勉強。(日記)

*直哉と有島生馬は『続紅雪録』に夢中になって騒いでいた。(『芳舟遺稿』所収4・14川村弘日記)

3・3(木) 直哉は木下利玄に昇之助が大黒様、昇菊が恵比寿様になって写した銅版を上げる。(木下利玄日記)

夜、直哉は田中平一、青山と歌舞伎座でコノラーの奇術を見る。(日記)〔続々歌舞伎年代記〕坤の巻)

木下利玄が直哉に絵葉書を出す。(『志賀直哉宛書簡』)

3・4(金) 直哉は田中平一と、朝から渋谷に行き、目黒不動、大崎の妙華園、八景園などをまわって、品川まで散策し、三時半

頃帰宅。夜、春日亭に行く。末勝の「伽羅先代萩」六段目(御殿)、巴勝の「伊勢音頭恋寝刃」油屋の段、広勝の

「日吉丸稚桜」、団昇の「恋娘昔八丈」四段目(城木屋)、昇之助の「菅原伝授手習鑑」四段目切(寺子屋)を聞く。(日記)

3・5(土) 直哉は、有島生馬、田中平一、石田、里見淳、林三郎と、東京座で観劇。「桐一葉」「日本勝利歌」を見る。我当の且

元、芝翫の淀君。他に、高麗蔵、猿之助、女寅、訥升、芝鶴、勘五郎、寿美蔵など。(日記)〔続々歌舞伎年代記〕坤の

巻)

3・6(日) 輔仁会春季大会を開催。(『学習院一覽 明治三十八年九月〜三十九年八月』「輔仁会記事摘要」)

直哉は十時頃起床、午後から「歴史」の勉強。夜春日亭に行く。輔仁会大会は欠席。広勝の「三十三間堂棟由来」

(柳)、団昇の「伊賀越道中双六」六段目(沼津)、昇之助の「絵本太功記」十段目を聞く。(日記)

3・7(月) 学習院は、輔仁会大会の慰勞休暇。直哉は「西洋歴史」の勉強をする。志賀直道から八郎兵衛の話聞き、芝居に来ると思つて筋だけ書く。(日記)

3・8(火) 直哉は朝三時頃から腹痛がするが「西洋歴史」の試験だけは受ける。岩倉道俱の家で五時まで話す。(日記)

3・9(水)

直哉は学習院を休み、昼頃から岩倉道俱と有島生馬を訪問し、散歩。この日、脱走兵七名が銃殺となったことについて考える。夜、一人で琴平亭に行く。若之助の「廓文章」(吉田屋、清枝の「御所桜堀川夜討」、小清の「桜鏢恨鯨鞘」(鱒谷)を聞く。これまでに感心した義太夫は、喜吉亭で聞いた昇之助の「近頃河原達引」堀川の段、麻布亭で聞いた相生太夫の「傾城阿波の鳴門」と今回の小清の「桜鏢恨鯨鞘」(鱒谷)の三回。(日記)

*『暗夜行路』草稿13十八によれば、この頃時々石川島で徴兵忌避者・脱營者の銃殺があり、極端な非戦主義者になつていた直哉は自分が徴集されたら、自分の考えを明らかにして銃殺されるより仕方がないと思つた。

3・10(木)

昼は『ヘルマンとドロテア』の講義があつた。直哉は帰宅後『フレデリック大王伝』の勉強。夜、高崎弓彦と新莊の家に行き、ブッフハイム『独逸読本』を習う。一人琴平亭に行く。若之助の「菅原伝授手習鑑」四段目切(寺子屋、清枝の「伽羅先代萩」六段目(御殿、小清の「ひらかな盛衰記」三段目(逆櫓)を聞く。(日記)

有島生馬が直哉に北齋の絵葉書を出す。昨日直哉が語つた脱走兵七名の銃殺について考えたとのこと。木下利玄が直哉に絵葉書を出す。(『志賀直哉宛書簡集』)

3・11(金)

直哉は帰りに田中平一の家へ寄り、夜、琴平亭に行く。団登の「壺坂靈驗記」、団昇の「蝶花形名歌鳥台」八段目、若之助の「新版歌祭文」野崎村の段、清枝の「絵本太功記」十段目、小清の「傾城阿波の鳴門」を聞く。(日記)

3・12(土)

直哉は、夜、「心理」のノートを見る。広津柳浪『さざれ浪』を読む。(日記)

3・13(日)

雪のため遠足は中止。有島生馬の招待で、直哉は招魂社で、宝生の能会を見る。狂言「木六駄」「居杭」、能「大蛇」「放下僧」「鷲」「鞍馬天狗」「連獅子」。宝生九郎の一世一代の「木曾」の願書も見る。その後、有島と三田のいろはで夜食し、春日亭に行く。広勝の「菅原伝授手習鑑」四段目、団昇の「一谷嫩軍記」三段目切「熊谷陣屋」、昇之助の「近頃河原達引」堀川の段を聞く。(日記) (『蝕まれた友情』一)

里見弴・児島喜久雄・中村貫之・菅田敏光・大村謙太郎・田中治之助が綯友会を結成。(里見弴「綯友会の生れ」)

3・14(月) 直哉は、カーライル『英雄崇拜論』を読む。(日記)

3・15(火) 学習院の帰りに、木下利玄と正親町公和が志賀家に來宅。細川護立も来て「国文」の勉強をする。木下・正親町と春日亭に行く。巴勝の「関取二代勝負附」(秋津島内)、広勝の「碁太平記白石嘶」、団昇の「荊萱桑門筑紫鞆」三段目切(守宮酒)、昇之助の「艶容女舞衣」中の巻後半部(長町)、掛け合いの「仮名手本忠臣蔵」七段目を聞く。(日記)

3・16(水) 放課後、直哉、正親町公和、木下利玄は、木下の家に行き、竹柏の話、蟻の話などをし、「国文」の復習をする。細川護立も終わり頃やつて来る。直哉は八時頃帰宅。(日記) (木下利玄日記)

3・17(木) 直哉は「国文」の試験を受け、上出来。夜は一人鶴仙亭に行く。大吉の「恋飛脚大和往来」(新口村)、昇之助の「伽羅先代萩」六段目(御殿)を聞く。(日記)

3・18(金) 直哉は学習院を休む。午後から田中平一が來宅。夜、『愛か(仮の名)』の其一(箱根にて書きしもの)を執筆。(日記)

3・19(土) 直哉は学習院を休み井上病院に行く。鶴仙亭に行く。時松の「奥州安達原」三段目、巴勝の「増補八百屋献立」、小豊後の「蝶花形名歌島台」八段目、大吉の「三十三間堂棟由来」(柳)、昇之助の「菅原伝授手習鑑」四段目を聞く。(日記)

3・20(日) 直哉は、午後から有島生馬と松平春光と上野の巴会に行き、眼鏡のやぶで夜食後、鶴仙亭に行く。時松の「日高川入相花王」四段目(日高川)、昇之助の「傾城阿波の鳴門」八段目を聞く。巴勝・小豊後・大吉は聞かない。(日記)

3・21(月) 直哉は、翌日「西洋歴史」の試験があると思っていたため、終日在宅。夜「聖書之研究」を読む。(日記)

3・22(火) 直哉は学習院を一時遅刻、あとはすべて出席。『ヘルマンとドロテーア』の講義があった。夜「同情」「料」という演説の筋を考える。(日記)

3・23(水) 直哉は「西洋歴史」の試験を受け、田中平一の家に寄り十一時半頃帰宅。三時頃、田中平一が来て「心理」のノートを調べる。夜、泉鏡花「起誓文」を読む。(日記)

3・24(木) 直哉は午前、「数学」を復習。午後から田村寛貞の家に行く。夜正親町公和と牛込亭に行く。花鞆の「傾城阿波の鳴門」八段目、吉花の「絵本太功記」十段目、小政の「新版歌祭文」野崎村の段を聞く。(日記)

*座談会『志賀直哉日記をめぐって』によると、岩元禎に大学では哲学科に行けと言われ、その資格を取るために学習院では「数学」を履修した。

3・25(金) 直哉は南日恒太郎の「英文」の試験は上出来だった。プッフハイム『独逸読本』はA、「国文」も○。「数学」は公式を誤り一題しか出来なかった。『ヘルマンとドローテア』は大変面白い。木下利玄と『フレデリック大王伝』を勉強、十一時半頃から内村鑑三『求安録』を読む。(日記)

3・26(土) 直哉は木村家に見舞いに行く。夜、四時間ほど「心理」の勉強をする。(日記)

3・27(日) 午前、直哉は「心理」の勉強をする。夜、田中平一の家に行き、鶴仙亭に行く。小豊後の「艶容女舞衣」酒屋の段、大吉の「加賀見山田錦絵」七段目(長局)、昇之助の「恋飛脚大和往来」(新口村)を聞く。(日記)

有鳥生馬からの手紙が届く。小政の「傾城阿波の鳴門」八段目を評し、義太夫節の演者のあるべき姿について論じたもの。直哉も大賛成。(日記)〔志賀直哉宛書簡〕

木下利玄が直哉に絵葉書を出す。立花高木が休みに上田敏「みをつくし」を読みたいので火曜日を持ってきて貸してほしいと言っているとの伝言。(〔志賀直哉宛書簡〕)

*『書き初めた頃』によれば、上田敏は読む気がしなかったという。

3・28(月) 直哉は朝と夜、有鳥生馬に手紙を書く。午後『フレデリック大王伝』を勉強。(日記)

3・29(火) 直哉は「心理」の試験が上出来。午後木下利玄が来て、『善悪柿太郎』を書く。新莊の家に行き、「東洋歴史」のノートを借りる。『フレデリック大王伝』の勉強。(日記)

3・30(水) 直哉は『フレデリック大王伝』の試験は五題中一題失敗。夜八時半頃から「東洋歴史」の勉強。(日記)

3・31(木)

直哉は「東洋歴史」の試験を受ける。有島生馬の家で会合。夜、宮戸座で観劇。「菅原伝授手習鑑」を見る。訥升、寿美蔵、訥子、菊四郎、宗之助など。(日記)〔続々歌舞伎年代記〕坤の巻)

この日か? (川村弘日記では3・11とあるが存疑)

陸友会の春季遠足の場所を決める会合を雨東(有島生馬)邸で開く。半月(志賀直哉)・川村弘・天外(黒木三次)・礫川(松平春光)・勇雪(田村寛貞)・GYらが集まり、黒木の意見で鈴川に行く事になる。(『芳舟遺稿』所収川村弘日記)(興津)

4・1(金)

直哉は九時から三時まで米津政賢の家に行き、昨日亡くなった豊の葬式のため木村家に行く。琴平亭に行く。岡太郎の「伊賀越道中双六」六段目(沼津)、大吉の「雪責」、団菜の「絵本太功記」十段目、梅登の「碁太平記白石嘶」、小土佐の「傾城阿波の鳴門」を聞く。(日記)

4・2(土)

九時半の汽車に乗り、志賀直哉・川村弘・有島生馬・黒木三次・松平春光で鈴川へ旅行。鈴川には黒木が言っていた田子浦館という宿屋は無く、泊まる場所が見つからないが、成り行きに任せ、「モメンタリズム」という言葉を作って笑った。興津に行つて一碧楼に泊った。(日記)〔『芳舟遺稿』所収川村弘日記)(興津)

川村弘のあだ名は「お婆アさん」。(興津)

4・3(日)

有島生馬と直哉は昇之助の賛美に夢中。昨日から二人はすべての談話を昇之助に結びつけるほどで、黒木三次や松平春光は不満を感じていた。(『芳舟遺稿』所収川村弘日記)松平春光は、昇之助を見たことがなく、昇之助の話を非常に厭がったが、皆は遠慮なく昇之助のことを話し合った。(興津)

午後、直哉は、松平春光と川村弘と共に薩埵峠に行く。(日記)

直哉は、田中平一・志賀家・志賀直方・木下利玄・正親町公和・林三郎に手紙を書く。(日記)(木下利玄日記)

4・4(月)

朝、直哉ら一行は、清見寺に行く。戻つてからは読書。直哉は英文の『小公子』、有島生馬は独文の『小公子』、川村

弘は『樗牛全集』を読む。（日記）（『芳舟遺稿』所収川村弘日記）

* 川村弘日記によれば、直哉・松平春光・川村弘で、薩陀峠に行ったのは、この日の午後。

* 英文の『小公子』については、座談会『回顧』で、日本で出版されたと言及。

木下利玄が直哉に葉書を出す。（『志賀直哉宛書簡集』）

4・5（火）

大雨。直哉は義太夫朗読会をする。昇之助の話で持ちきり。午後、雨が晴れ、つり橋を早く渡る競争をする。（日記）（『芳舟遺稿』所収川村弘日記）（『興津』）

4・6（水）

直哉ら一行、三保に行く。羽衣の松を見、天女がいかなるものか議論となり、直哉が昇之助に生き写しであったろうと述べる。次いで龍華寺の高山樗牛の墓に詣でる。直哉は樗牛のものは読んだことがなかった。直哉と川村弘だけ久能山に向う。家康の墓に詣でる。静岡に行き千鳥座で田舎芝居「敵討肥後之駒下駄」を見て戻る。（日記）（『芳舟遺稿』所収川村弘日記）（『興津』）

直哉は、田中平一・徳川・志賀家に葉書を出す。（日記）

* 直哉は、『樗牛全集』が出た時、買ったが結局読まなかった。（対談『秋の夜話』）

4・7（木）

直哉ら一行は、興津を出、三島を経て、箱根に行き、橋本屋に泊る。（日記）（『芳舟遺稿』所収川村弘日記）
木下利玄が直哉に絵葉書を出す。（『志賀直哉宛書簡』）

4・8（金）

直哉ら一行、芦ノ湖で遊び、塔の沢の新国（新玉の湯？）に泊る。（日記）（『芳舟遺稿』所収川村弘日記）
* 新玉の湯の風呂の壁画は四條派の絵。四條派ということが、有島生馬や直哉の気に入りだった。（『芳舟遺稿』所収M

38・1・6川村弘日記）

4・9（土）

直哉ら一行、帰京。竹葉で昼食に鰻を食べ解散。直哉と川村弘とは歌舞伎座で観劇。「桜の御所」「日蓮聖人辻説法」を見る。梅幸、羽左衛門、吉右衛門、菊五郎、八百蔵、市蔵など。（日記）（『芳舟遺稿』所収川村弘日記）（『興津』）（続々

歌舞伎年代記」坤の巻)

4・10(日) 隅田川上流で、午前八時から午後五時頃まで輔仁会の第十回端艇競漕会を開催。(『学習院一覽 明治三十八年九月』三十九年八月)「輔仁会記事摘要」(M37・6「学習院輔仁会雑誌」63号「雜報」)

直哉は、田中平一と向島のボートレースに行く。B組の初優勝。植半の宴会には顔だけ出し、泰明軒で食事。(日記)

4・11(月) 午後一時から学習院で先進講話会。日露開戦以来の海軍の行動、海戦の有様などについての小笠原海軍少佐による二時間ほどの講話があった。(M37・6「学習院輔仁会雑誌」63号「雜報」)

始業式だが、直哉は午前中は在宅、午後より岩倉道俱の家に寄り、学習院に登校して先進講話会を聞く。小笠原少佐の話、広瀬武夫中佐の絶筆などを見聞し、反戦的な感想を抱く。田中仁之助、田中平一が来宅。(日記)

4・12(火) 直哉は、夜、琴平亭に行く。岡太郎の「日吉丸稚桜」三段目、大吉の「三十三間堂棟由来」(柳)、梅登の「玉藻前囃」三段目、団栄の「明烏夢泡雪」山名屋の段を聞く。鶴仙亭に行き、生島太夫の「義経千本桜」三段目切(蛸屋)を聞く。(日記)

4・13(水) 直哉は、朝から「武課」まですべて出席。岩倉道俱の家に有馬生馬と行くが不在。岩倉道俱の過ちを正さねばならないと思う。(日記)

4・14(木) 直哉は「国文」一時間出席して帰宅。田中平一と銀座を散歩し、林三郎の家に寄って八時頃帰宅。内村鑑三「後世への最大遺物」を半分読んで寝る。号外で読んだマカロフ提督らの戦死について反戦的感想を日記に記す。(日記)

4・15(金) 直哉は学習院を休む。『義太夫秘訣』を読む。夕方、岩下家一、田中平一が来宅。ラムの「Tales from Shakespeare」の「The Merchant of Venice」を読む。新約聖書「ガラテヤ人への手紙」第六章を研究。(日記)

4・16(土) 直哉は学習院で授業を受け、林三郎と帰宅。三時頃から田中平一が来る。夕方から東橋亭に行く。梅登の「廓文章」

(吉田屋)、呂行の「本朝廿四孝」四段目(十種香)、広勝の「碁太平記白石噺」、団昇の「大星出立」、昇之助の「新版歌祭文」野崎村の段を聞く。(日記)

4・17(日) 午前、直哉は川村弘に前夜の批評を手紙で送る。午後は行軍の支度。夜、直哉は九時頃まで川村弘の家、田中平一の家にも行き、十時に帰宅。(日記)〔芳舟遺稿〕所収川村弘日記)

4・18(月) 高等学科及び中等学科四年級以上の学生二百二十九名が府中地方へ五泊行軍。(「学習院」覧 明治三十八年九月)三十九年八月)「記事摘要」)

直哉も行軍に参加。第二中隊の第一小隊第一分隊で部下は十二名。蕨町泊。(日記)
*行軍中の出来事は、「春季行軍記事」(M37・6「学習院輔仁会雑誌」63号)に詳しい。

4・19(火) 行軍二日目。前田利彰に直哉は帽子の桜草をとるよう注意される。志木町泊。部下は十名だが、ならずもので言うことを聞かず他所で飲酒。(日記)

4・20(水) 行軍三日目。所沢泊。(日記)
4・21(木) 行軍四日目。直哉は、風規衛兵司令として汽車で府中入り。(日記)

4・22(金) 行軍五日目。前夜、大山・三島・東郷が外泊、前田も外泊に近いことをして飲酒、直哉と口論になる。高井戸泊。(日記)

4・23(土) 行軍六日目。九時頃、学習院着。直哉は、前田と談判し、腕力での決着も考えるが、田村寛貞・黒木三次に止められる。午後、田中平一の家へ寄り、有馬生馬と岩倉道俱の家に行くが留守。夜、牛込亭に行く。菅太夫の「玉藻前曠袂」三段目、柳適太夫の「彦山権現誓助剣」七段目、相生太夫の「傾城阿波の鳴門」八段目を聞く。(日記)

4・24(日) 直哉は夕方から田中平一と東橋亭に行く。呂行の「伽羅先代萩」六段目(御殿)、広勝の「壺坂靈験記」、団昇の「増補忠臣蔵」(本蔵下邸)、昇之助の「艶容女舞衣」酒屋の段を聞く。(日記)

4・25(月) 直哉は朝から宮戸座で観劇。「仮名手本忠臣蔵」「清水一角」を見る。寿美蔵、訥子など。(日記)〔続々歌舞伎年代記〕
坤の巻)

4・26(火) 林三郎が志賀家に来宅、話が弾まず、直哉は田中平一を呼ぶ。夜食後、有鳥生馬に誘われ、広勝の「艶谷女舞衣」酒屋の段、団昇の「鶴山姫捨松」(中将)、昇之助の「心中紙屋治兵衛」を聞く。(日記)

4・27(水) 直哉は、ウォルフの「独文」を休んで帰宅。小野保之から内村鑑三が土曜の晩、講話会をするとの電話。(日記)

4・28(木) 朝、二時間休講。帰途、直哉は田中平一の家へ寄るが不在、柴山昌生の家で遊ぶ。昇之助の「新版歌祭文」野崎村の段の評を書く。午後八時半頃、岩下家一が来宅、十一時過ぎまで議論。(日記)

4・29(金) 直哉は、夜、有鳥生馬の電話で、東橋亭に行く。綾登司の「三十三間堂棟由来」(柳)、梅登の「雪責」、呂行の「菅原伝授手習鑑」四段目切(寺子屋)、広勝の「碁太平記白石嘶」、団昇の「彦山権現誓助剣」七段目、昇之助の「恋女房染分手綱」十段目、掛け合いの「壇浦兜軍記」三段目(琴責)を聞く。(日記)

4・30(土) 夜、直哉は内村鑑三の所に行く。末永馨から雑誌と絵葉書が来る。(日記)